

■ 管理費等の請求に関して、クラセルではどのような会計をしている？

管理費等の請求に関して、クラセルでは「**複式簿記**」と「**発生主義**」を基本とした会計を行っています。このような会計は、多くの管理組合にて採用されています。

■ 簿記の種類について（単式簿記と複式簿記）

簿記の種類には、**単式簿記**と**複式簿記**というものがあります。

単式簿記では、基本的には収支のみを帳簿につけるためシンプルです。

一方、**複式簿記**は、「借方」「貸方」という概念を用いて、少し複雑に帳簿を付けていくことになります。

例えば、**単式簿記**では管理費等の未収金・前受金の金額を帳簿で把握することはできませんが、**複式簿記**では「借方」に未収金、「貸方」に前受金という勘定科目を貸借対照表に設定しますので、各金額を把握する事ができるようになります。
クラセルでは、この複式簿記と後述する発生主義を合わせて採用することにより、管理費等の未収金・前受金の金額が自動計算されますので、とても便利です。

■ 会計の概念について（発生主義と現金主義）

会計の概念として、**発生主義**と**現金主義**というものがあります。

発生主義は、金銭のやり取りがなくても取引が発生した時点で収入・支出を計上します。

一方、**現金主義**は、現金や預金の入出金の事実があって初めて取引を認め、収入・支出を計上します。

現金主義は、一見わかりやすく感じますが、会計上の不都合もあります。

例えば、今年度にAさんから管理費等が3年分振り込まれた場合、3年分全額が今年度決算書に収入計上されるので、今年度の収入が膨らみ、一見、余裕のある資金状態に見えてしまいます。
また、翌年度にはAさんは管理費等を振り込まないでしょうから、翌年度決算書では収入額が減ってしまいます。このため、一見、余裕のない資金状態に見えるでしょう。

このように、**現金主義では、管理組合のふところ事情（本当に黒字なのか赤字なのか）をタイムリーに把握することが困難になります。**

一方、発生主義により、このような問題が解消できます。

では、発生主義では管理費等の収入をどのように計上するのでしょうか。

発生主義では、「**決算期間（月数）× 管理費等の規定月額**」を計上します。

毎月、管理費等の請求が発生し、その債権は原則消えることはないので、毎月、定額を計上するのです。

クラセルでは、この発生主義と複式簿記との併用により、月次で管理費等の未収金・前受金の金額がいくらなのか、貸借対照表にてすぐに確認することができます。

